

(様式第7号)

大阪府高校生留学支援金留学報告書

2013年7月28日

学 校 名				支 援 金 交 付 年 度	2012 2013 年度
氏 名					
留 学 期 間	平成 24 年 1 月 18 日 ~ 24 年 12 月 6 日				
留 学 先	国 名	ニュー・ジーランド	学校名	St.Hilda's Collegiate School	
専 攻					

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

ニュー・ジーランドに来て半年、私はとても多くの経験をした。今回の留学は私の初海外でもあり、飛行機に十数時間乗ることすらも、私にとっては未知の世界だった。ニュー・ジーランドに着き、最初の二泊三日のオークランドでの合宿は、これからお世話になるアドバイザーさんの方々と、オークランド市内を回り、銀行で自分の口座の手続きを、そしてこちらのマナーを勉強してもらいました。その中でも、二日に生徒全員で行ったオークランドのある学校では、その校長先生や数々の生徒に学校の制度を教えてもらったり、校内を見せてもらったりしました。日本とは全く違い、一つの建物にいくつかの教室があるのではなく、一つの小さい、まるで一軒家のような建物に、一つの教室があるといった感じで、「ああ、外国に来たんだ」と実感させられたのと同時に、言葉にならない程の不安が押し寄せてきました。オークランドから飛行機毎日この留学に向け共に頑張ってきた、大切な仲間との別れはとても寂しかったです。オークランドから飛行機で約二時間がたつ私がお世話になる街、ダニディンへと行きました。私を一年間預かってくれるファミリーとの出会いは、この半年で私を一番理解し、留学生活を身近に支えてくれる存在となりました。ファミリーは六十代前半のホストファミリー、ホストマザーと私と同じ日に到着したドイツ人と同じ年のホストファミリーでした。彼女は私と違い、留学期間がたった半年でしたが、出会った時から英語がとても上手でした。それに比べ、英語を聞き取ることも話することもままならない私はとてもショックでした。ホストファミリーにとっても温かく迎えてくれたホストファミリーが自ら言葉からといって、コミュニケーションを平等に接してくれ、私は最初から不自由なく過ごすことが出来ました。ホストマザーはとてもお喋りが大好きで、みんなでお飯を食べる時でさえも沈黙の時間がなく、英語がまだわからない当時の私でも楽しめる程でした。そして来た当初は、「毎日ホームシックにならない？」と聞いてくれたり、まるで自分の娘のように接してくれ、私の中でホストマザーはとても心強い存在となりました。学校が始まり、緊張と、友だちができるかなどの不安はいつの間にか消えました。登校初日に新しい留学生同士が集まったときに、ドイツ人の多さと彼女たちの英語の上手さにとても驚きました。さすがみんなとても優しく、またとても慣れない私たちが無理なく英語の上手さにとても驚きました。学校の先輩から、ランチタイムが一番重要と教わりましたが、「あなたたちと一緒にランチ食べてもいい？」という一文が高い出せず、自分の弱さを改めて実感し、とても悩まされたが、それは自分の英語に自信がないからだとおぼろげに、それから間違えることを怖く思わないように心がけています。そして、日本で三歳から習っていたピアノを英語でもやってみようと思ひ、習うことになりました。習うことになりました。学校に来て授業中に少しだけレッスンを受けるという形でした。先生は女の先生で少し年輩の方で、ピアノの専門用語をもっとも親切に教えてくださいました。そして、九月に開かれるピアノコンクールに出ることにし、ピアノの先生だけでなく、音楽の授業を担当している先生にも時間があつたときにアドバイスをもらったりして、最優秀賞をもらえるように頑張っています。そして、私は友だちを作る一番良い方法はスポーツをすることだと思ひ、そして元々体を動かすことが大好きだったので、体育の授業を選択しました。体育の授業はクリケットやネットボールなどのニュー・ジーランド

独特のスポーツや、バスケットボールやバレーボールなど、日本でしたことのあるスポーツをみんなできて、他の授業よりも比較的楽しく友だち作りが出来ました。Term 1と呼ばれる、日本でいう一学期は私にとって初めての現地の生徒たちや、前からいた留学生との出会いなど、たくさん素晴らしい思い出がいっぱいでした。そして一月から七月まで半年間過ごしてきて、私の中で一番大きかったものはバレーボールチームに入ったことですよ。Term 1は学校のバレーボールクラブが活動していたのでそこに入れてもらい、日本で半年間していた私は学校のトップチームに入ることが出来ました。選抜されたチームしか出場することが出来ない大会にも出場することができ、見事に優勝することが出来ました。今まで勝ったことのないチームにも月勝てたし、インターナショナルの先生からとても褒められ、そしてその時の写真も壁に見張り出され、そのおかげで現地の生徒たちがバレーボールのことをよく声をかけてくれるようになりました。そしてTerm 2では、学校のバレーボールチームは活動していなかったのですが私の滞在しているオタゴ地域域の大学生のチームに入れてもらいました。このチームはバレーボールの経験者ばかりで、学校のチームとは違い、本格的なものでした。チームメイトは私以外二十歳ぐらいの人ばかりで、私が留学生ということもあり、すごく親切に接してくれました。大会も頻繁にあり、バスで片道五時間のところや、飛行機で二時間ほど遠征に行く機会が増えました。自分の大好きなスポーツを、大好きな英語で出来て、そして大学生の友だちも出来るととても充実しています。この半年間、楽しいことばかりではなかったし、自分のコミュニケーション能力の低さや、単語力のなさに悩んだりもしました。そして、留学前は、「後悔のない毎日過ごす」と意気込んでいたのももちろんそれも大事だと思いますが、来た当初などは後悔なしに一日を終えるのはとても難しいことだと思いました。なので私は一日の終わりにりながらあつあつ毎を次の日からどう活かすか、ということに視点を置いて毎日過ごしています。そして、当たり前ですが、極力日本語には触れないこと、それから最近はおバイザーさんに教えてもらった、「Think In English」を心がけるようにしています。あと半年、英語という言葉をも自分のものにするために精一杯努力したいと思っています。

上記の内容については、公表される場合があることを了承します。

(申請者が☑してください。)